

本報が遅れました
このお詫び申し上げます。

第一回中央労働学校開催

震災から1年8ヶ月、爪痕はいまだ深く

昨年一月二日(四)〜二六日の三日間、宮城県仙台市のT K P 仙台カンファレンスセンターにおいて、統一後初となる第一回国土交通労働組合中央労働学校が約五〇名の参加で開催され、東海建設支部からも二名が参加しました。労働学校は、安藤中央執行委員長(学校長)の挨拶で始まり、国土交通の盛永中央執行副委員長や交通共闘の宮竹前事務局長、山形大学の行方教授など多彩な顔ぶれの講師陣を招き講義が行われました。

また二日目には、東北地方協議会の協力のもと、東日本大震災で被災した名取川河口や南相馬市小高区の現地視察が行われました。

労働学校は学びの場

冒頭、安藤委員長から「統一して初めての労働学校ですが、昔のような幹部養成学校ではなく、これからは『学びの場』としてやっていきたい。しかし、知識を詰め込むだけで運動に使えなければ意味がない。結果を意識して常に『なぜ』という疑問を持ち、自分の考えを持って学んでほしい」と挨拶されました。



挨拶する安藤中央執行委員長

人動のまきでほぐす

国土交通の盛永中央執行副委員長からは労働基本権と買下げ違憲訴訟に関する講義が行われました。

二年に取組んだアンケータでは、人動のままで良いと答えた職員が約二割いました。しかし政府・国会は代償措置である人動を無視し、議員立法として買下げ法案を提出しています。その際人事院は「人動さえやればよくて、給与削減法案は別に検討すればよい」と代償措置としての機能を果たそうとしているのです。政府の影響を受け、民間進退一辺倒の人動制度では代償措置として不十分なものではないかことをもっと人動にPRするべきと説きました。

また公務員買下げ違憲訴訟では、負けたら何でもありません。

- ### 第1回中央労働学校講義一覧
- 第1講義 「公務職場の労働基本権の現状と買下げ違憲訴訟」 国土交通中央執行副委員長 盛永雅則氏
 - 第2講義 「未来への展望をもち、明るく楽しい労働組合を」 交通共闘前事務局長 宮竹光男氏
 - 第3講義 「『地域主権改革』のねらいと地域でのとりくみの強化について」 本都地域主権改革・独法改革阻止闘争本部 事務局 吉岡清智
 - 第4講義 「国民に望まれる震災から復旧・復興とその現状」(座学・現地視察) 東北地方協議会 田中事務局長
 - 第5講義 「新自由主義とは何か」 山形大学人文学部法政政策学教授 行方久夫氏



盛永国土交通副委員長

回結してたたかおう

二日目の午前中は、東北地方協議会の田中事務局長より、東日本大震災での建設・運輸・港湾・気象など国土省出先機関の奮闘ぶりや、原発事故が発生した際も三〇〇km圏内で最後まで残って頑張ったのは国土省職員で、マスコミや他の公務員はすぐさま逃げ出した事などが紹介されました。

風化させない、忘れないよう今の南相馬市の状況を発信してほしい

労働学校二日目の午後、仙台駅を出発し、一路沿岸部へ。私たちがまず向かったのは、仙台市深沼海岸でした。市街地から東へ向かって走る途中、バスの中から見えるのは、ごく普通の市街地の風景でした。しかしその風景も、仙台東部道路を挟んで徐々に変わっていきま

ない現状が垣間見えました。名取市閉上る取川河口地区では、土地区画整理事業で3mほど高上げする計画ですが、住民の合意形成を得るのが難しく、一年八ヶ月が経っても瓦礫が撤去された程度で思うように復旧・復興が進んでいないようでした。

に位置し、今年の四月一五日まで警戒区域として立ち入りが厳しく制限されましたが、一六日から避難指示解除準備区域として夜間の立ち入りは禁止されるもの、これまでよりも自由に立ち入りが可能となった地区です。

ただ、それ以外の家屋は手つかずのまま朽ちるのを待つのみです。海岸に面した小高区井戸川は優良な農地だったのですが、Oメートル地帯でもあり、地震により排水機場が壊れたため耕作地全てが海水につかかってしまっただけです。また、排水作業をするにも立ち入りが制限されていたため、一年以上も放置されたままです。最近になって早刈りができたようですが、除染が一向に進まないため復興への道のりはまだまだ険しいものと

いえます。川崎さんからは、国に排水をお願いしたが線量が高いとの理由でなかなか実施してくれなかった。更に作業段階でも縦割り行政で、調整に時間を要したそうです。緊急時は国の機関同士が縦割りで動くのではなく、被災者のことをもっと考え協力して動く必要があります。



津波で被害を受けた荒浜小学校体育館



堤防の復旧が完了した名取市閉上地区



国道6号沿いでも人影は見られない南相馬市小高区



優良な農地だった小高区井戸川地区



熱く語る渡辺市長

津波・原発事故の爪痕は深く

次に私たちが訪れたのは、福島県南相馬市小高区でした。ここは福島第一原発から二〇km